

下水道っておもしろい

岩村 はるのすけ

小郡市立 三国小学校

みなさんは、下水道について考えたことはありませんか。ぼくは、今まで全くと言っていいほど、考えたことはありませんでした。そんなぼくが、下水道について考えるようになったのは、学校の社会科見学がきっかけでした。

ぼくは、社会科見学で宝満川センターに行つて、動画を見ながら下水道について学びました。よごれた水は、地下にある下水管を通つて下水処理場へと流れていきます。

下水処理場では、バクテリアなどの微生物がよごれを食べることを利用して、下水をきれいに処理しています。きれいに処理された下水は、川や海などに放流されて、自然にもどっていきます。

ここでぼくが興味をもった「下水処理の仕組み」について、お話ししましょう。

まずはじめに、よごれた水は、「ちんさち」で大きなゴミや石、すななどをしずませて取りのぞきます。次に、「最初ちんさち」で細かいよごれをゆっくり流してしずめます。そして、「反応タンク」で微生物をくわえて、空気を送りながらかきまぜます。微生物がよごれを食べて分解し、水をきれいにします。その後、「最終ちんでんち」では、反応タンクで処理された水をゆっくりとしずめ、きれいになった水に消毒薬をくわえて、大腸菌などを殺菌します。さいごに、消毒した水を海に放流します。

ぼくがこの仕組みの中で興味をもった所は、地下にある送風機で空気をふくふくと送る所と、十三時間もかけて水をきれいにしているという所です。水をきれいにするには、とても長い時間がかかることを初めて知りました。

社会科見学を通して、ぼくたちが生活していくうえで、下水道がとても大切だということが分かりました。下水道や下水処理場がなければ、町がよごれた水などであふれかえってしまいます。なので、浄化センターで働く人たちに感謝しながら、水を大切に使うということが思えます。みなさんも下水道について調べてみてはいかがでしょうか。調べてみると新しい発見があり、今の自分たちの生活を見直すことにもつながりますよ。